

J I C A 中国人研修生 嵩上げダムを学ぶ

去る、6月22日（火）J I C A 中国人研修生8名が新丸山ダム工事事務所を訪れ、研修の一環として「新丸山ダムの設計施工について」受講しました。

既設丸山ダムの機能を維持しながら下流側に47.5メートル、高さ24.3メートル嵩上げする事業の説明を受けた研修生は、大型スクリーンに映し出された映像に見入っていました。

特に、大規模ダムでは日本初となる横越流方式減勢工（注1）とCSG工法（注2）についての質問が多く出され、通訳の方も大忙しでした。講義の後には、今年3月に開通した付替国道418号の新旅足橋を見学し研修を終了しました。



講義の様子



熱心にカメラを撮る研修生

なお、本研修は独立行政法人国際協力機構から「平成22年度中国国別研修「日本のダム運用管理」コース」に係る研修（6月9日から6月25日まで）についての13日間の研修のうち、当事務所に受入要請があった1時間30分の講義を実施したものです。

(注1) 横越流方式減勢工

新丸山ダムを建設する場所は、左岸側が緩やかな斜面であることに加えて、非常に硬い岩盤であることがわかっています。そこで、減勢工の水たたき部を地形に合わせて段状にし、左岸側の上段で勢いを弱めた放流水を右岸側の下段方向に流れさせ、右岸側下段を流れる放流水にぶつけることで、双方の水の勢いを弱めさせる方式を採用します。この方式の減勢工を『横越流方式減勢工』といいます。

減勢工

ダムから放流された勢いのある水が、そのまま下流へ流れると、橋や護岸等に影響を与えるため、この水の勢いを弱め下流へ流す役割をもったダム直下に設けるプールのような構造物をいいます。

水たたき

減勢工に設けられるコンクリート製の床のこと。このコンクリートにより河床の保護がなされます。



(注2) CSG (Cemented Sand and Gravel) 工法

CSG工法とは、河床砂礫や掘削ズリなど、建設現場周辺で容易に入手できる材料にセメントと水を添加し混合したものを、ブルドーザーなどの汎用機械を用いて造成する、コスト縮減や環境負荷の軽減を目的に開発された工法です。

掘削ズリ

土木工事などで地面や岩盤から掘り出された岩石や土砂のこと